

2015年度 調査結果（2014年11月発行）

国内外の学生の就職意識調査

今夏、ハーバード大学の学生主催によるアジア学生会議「ハーバード大学アジア国際関係プロジェクト（HPAIR:Harvard Project for Asian and International Relations）2014 東京会議」が、東京で5日間（2014年8月22日～26日）にわたり開催された。20年以上続く歴史ある学生会議で、日本での開催は9年ぶりで、慶應義塾大学などを会場に世界各国のトップスクールから学生が集結した。

同会議参加者を対象に、事務局の協力を得て就職意識に関する調査を実施した。

【主な調査項目】

1. 参加者の出身国・地域分布

○アジア地域（日本含む）からの参加者が7割強、北米・中南米・ヨーロッパからの参加者が2割強

2. 海外留学の理由

○「母国の大学では学ぶことのできないスキルや知識を習得できる」が54.4%

3. 大学教育の満足度と奨学金制度の利用状況

○約7割（69.8%）の学生が、現在通っている大学の教育内容に満足

4. 海外の学生の日本での修学について

○海外の学生の8割弱（79.8%）が、将来、日本で学びたいと回答

5. インターンシップについて

○アジア学生会議参加者69.8%がインターンシップ経験あり
○「インターンシップ先へ就職したい」は、アジア学生会議参加者69.1%、就職活動モニター61.3%

6. 就職先を選ぶ際に重視する点

○最も重視するのは海外の学生「給与・待遇」67.2%、日本の学生「仕事内容が魅力的」73.8%、就職活動モニター「1000人以上の従業員がいる」39.4%

7. 卒業後の進路と10年後の年収予想

○10年後の年収予想のボリュームゾーンは、日本の学生「5万ドル以上～10万ドル未満」33.8%、海外の学生は「5万ドル未満」25.8%

8. 日本での就業について

○海外の学生が日本で働く際、最も困難と思うのは「言語の壁」85.2%

9. 日本の企業に対するイメージ

○「高い日本語レベルが求められる」51.7%、「長時間労働」46.7%、「技術力が高い」45.7%、「安定した経営」36.4%

10. アジアを牽引する国、将来働きたい国について

○今後、アジアを牽引する国は、「中国」45.2%、「インド」16.6%、「日本」（3.8%）

《調査概要》

調査対象：ハーバード大学アジア学生会議参加の大学生・大学院生

回答数：367人（男子199人、女子168人）

調査方法：インターネット調査法

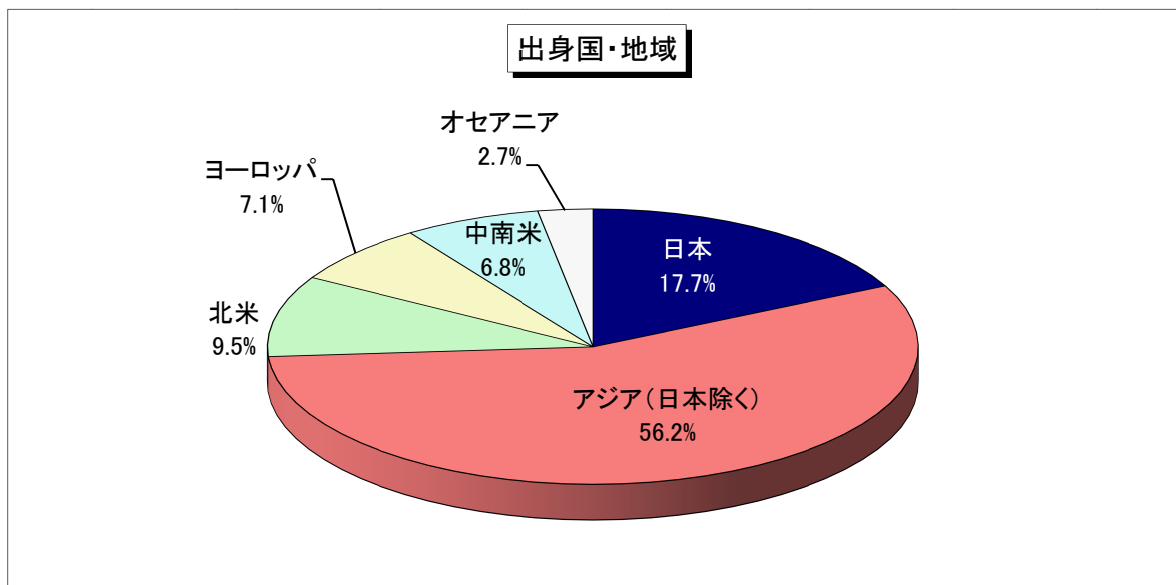
調査期間：2014年8月22日～26日

協力：ハーバード大学アジア学生会議

※国内就活生の調査結果は「日経就職ナビ2015 就職活動モニター調査」より

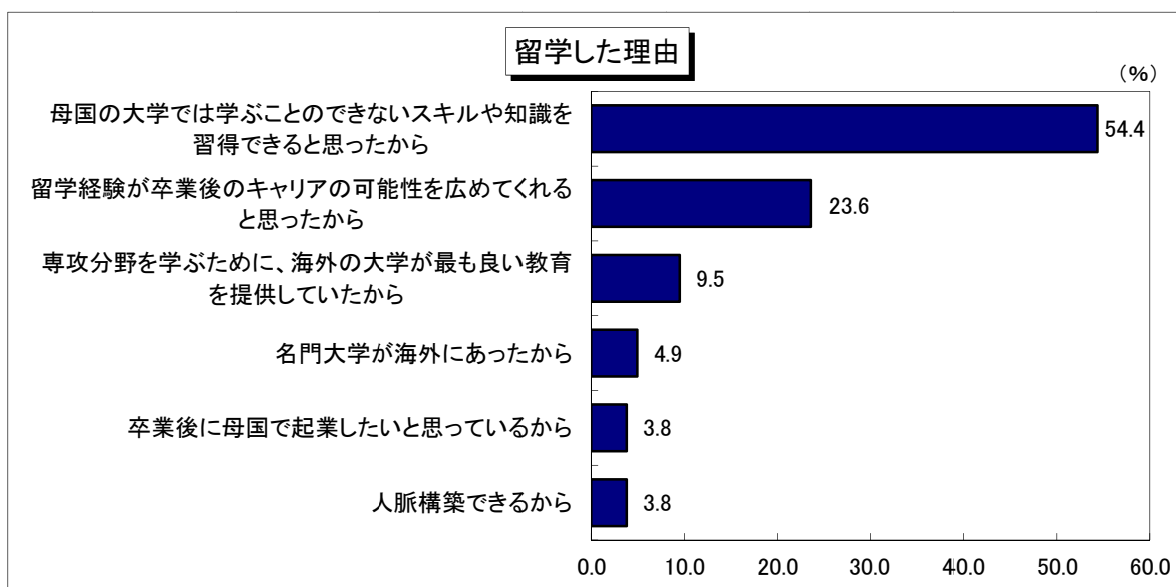
1. 参加者の出身国・地域分布

最初に本調査に回答した学生の出身の国・地域の分布を紹介したい。アジア学生会議の今年の開催国である「日本」が最多で17.7%（65名）、次いで「インド」12.0%（44名）、「中国」11.7%（43名）だった。日本を除くアジアを合計すると56.2%と5割を超え、「インド」、「中国」以外に「フィリピン」9.8%（36名）、「インドネシア」8.2%（30名）と続き、全体の2割強が北米、ヨーロッパ、中南米からの参加だった。



2. 海外留学の理由

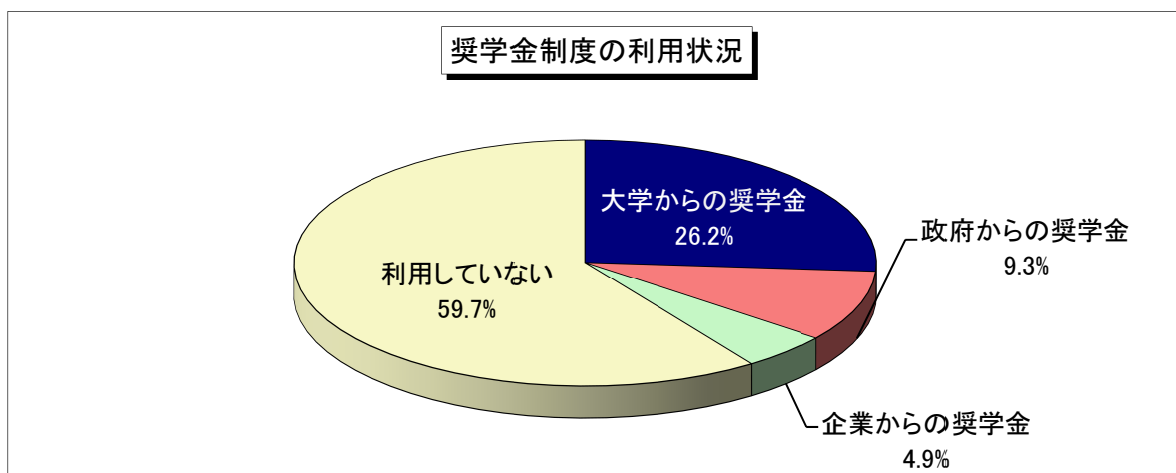
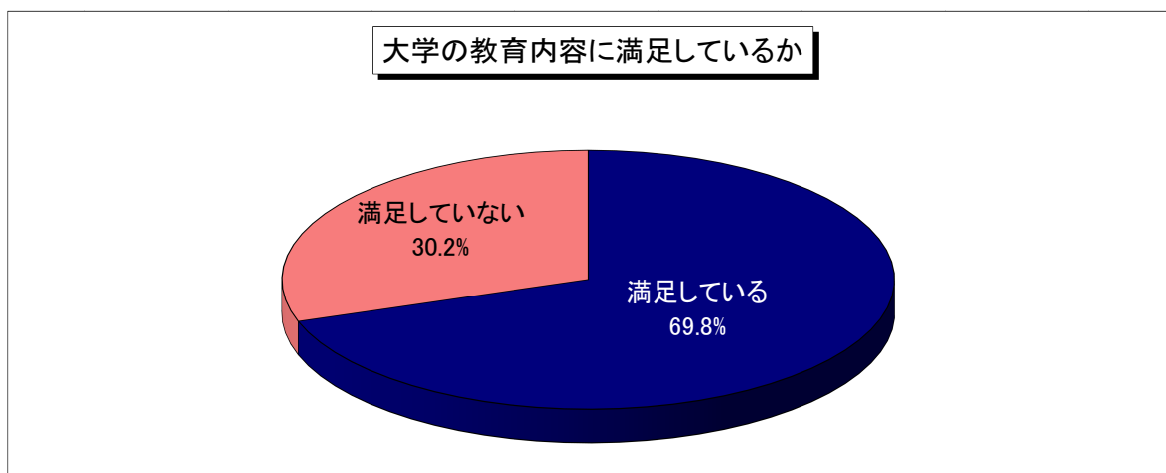
回答者のうち海外留学経験者は約7割。海外留学した理由を尋ねると、「母国の大学では学ぶことのできないスキルや知識を習得できると思ったから」が54.4%と最も多かった。次いで「留学経験が卒業後のキャリアの可能性を広めてくれると思ったから」23.6%、「専攻分野を学ぶために、海外の大学が最も良い教育を提供していたから」9.5%が続いた。将来のキャリア構築を見据え、海外留学はより専門性を高めるための手段の一つとして捉えられている。



3. 大学教育の満足度と奨学金制度の利用状況

在籍している大学の教育内容に満足しているかどうかを尋ねると、約 7 割（69.8%）の学生が満足していると答えた。ただし、海外からの参加者は 75.8%、日本人参加者は 61.5%と満足度には約 14 ポイントの差があった。「満足」と答えた学生に、その理由を尋ねたところ、充実した教育制度や教授陣、高い専門性、学生の多様性などの声が挙がった。一方、満足していない学生からは、教授陣の指導方法やカリキュラムへの不満、海外で学ぶ機会が少ないなどの不満が挙がっていた。

奨学金制度は、約 4 割（40.4%）の学生が利用しており、「大学からの奨学金」26.2%、「政府からの奨学金」9.3%、「企業からの奨学金」4.9%だった。

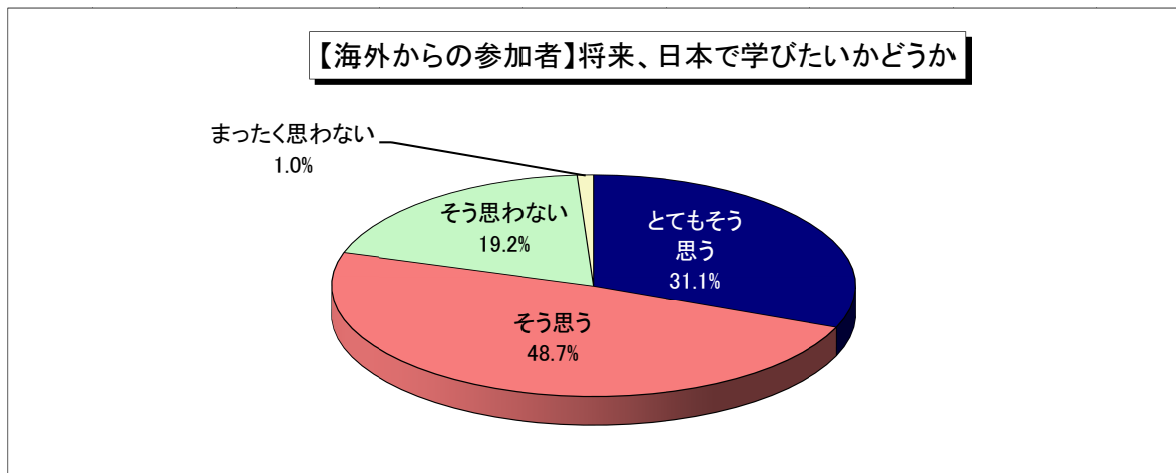


■大学の教育内容について満足している点、満足していない点

- 交換留学生との交流や多彩な科目を学ぶことができる。 <Bocconi University イタリア出身・男子>
- 優れた教育、様々なフィールドの専門家が多くいることで幅広く学べる。またキャリア開発においてすばらしいコンテンツを提供してくれる。 <Harvard University アメリカ出身・女子>
- すばらしいネットワークや学びの機会があり、異文化体験もできる。 <Cornell University 日本出身・女子>
- 国内外で学んだことを生かすための優れたプログラムがある。世界中の人と繋がり、共有し、それらの経験を学ぶ場が用意されている。 <Universidad Anáhuac メキシコ出身・男子>
- 英語教育が物足りないと感じている。 <慶應義塾大学 日本出身・女子>
- 大学の教授陣が少なすぎる。教員不足で多くの科目・授業を受け持たなければならないため、十分な研究を行うことができないという課題がある。 <Institut Teknologi Bandung インドネシア出身・女子>

4. 海外の学生の日本での修学について

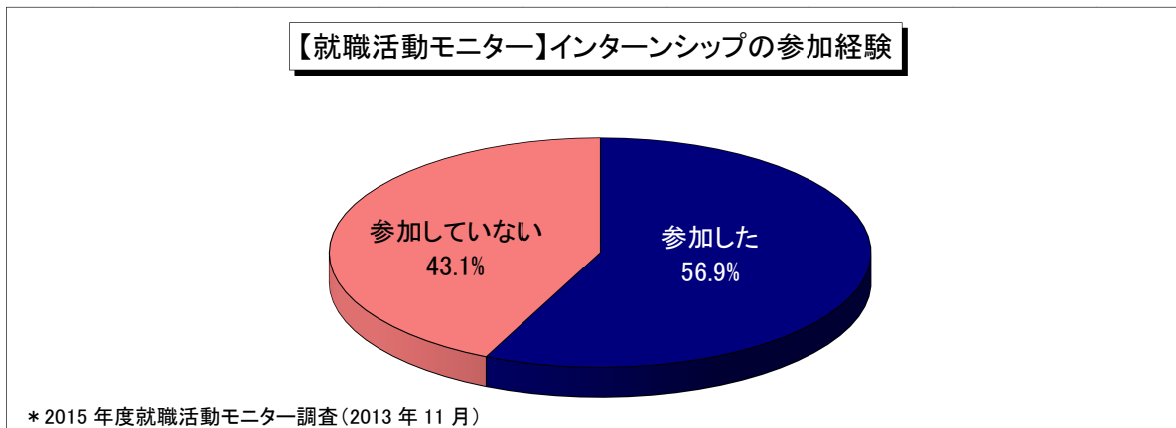
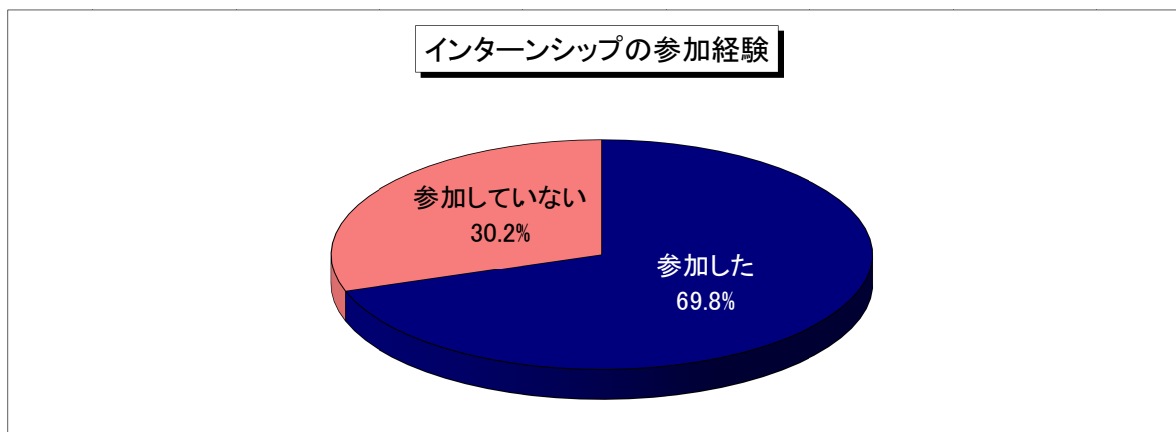
今回のアジア学生会議に海外から参加した学生に将来、機会があれば日本で学びたいかどうかを尋ねた。「とてもそう思う」31.1%、「そう思う」48.7%と、8 割弱（79.8%）が将来日本で学ぶことに好意的だった。



5. インターンシップについて

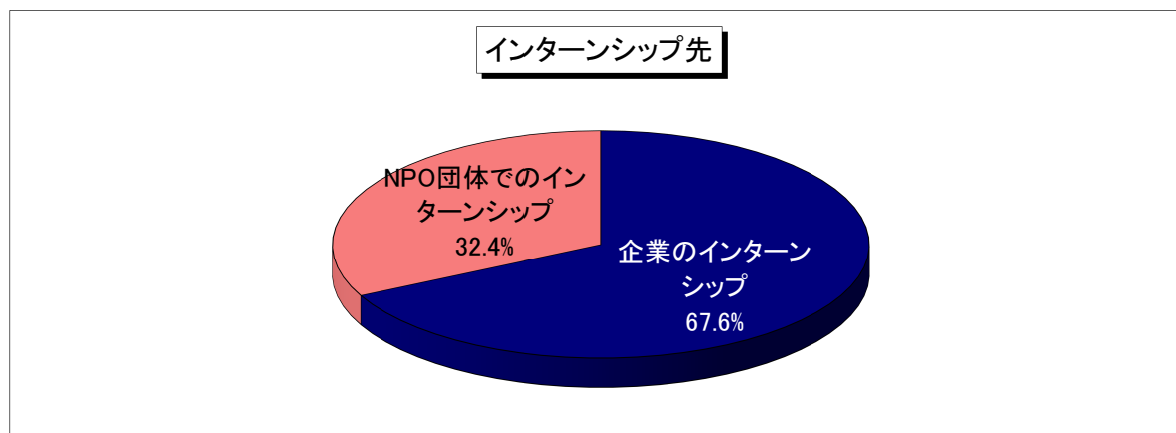
[1] インターンシップ参加経験

インターンシップ経験の有無を尋ねたところ、約 7 割（69.8%）が「ある」と回答した。一方、国内の就活生（2015 年度卒就職活動モニター。以下「就職活動モニター」と記載）の調査結果と比較したところ、インターンシップ経験があるのは約 6 割（56.9%）。本調査回答者のインターンシップ経験は、就職活動モニターよりさらに約 13 ポイント高かった。



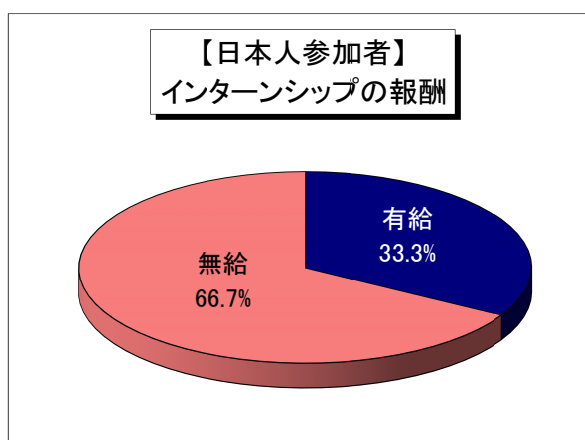
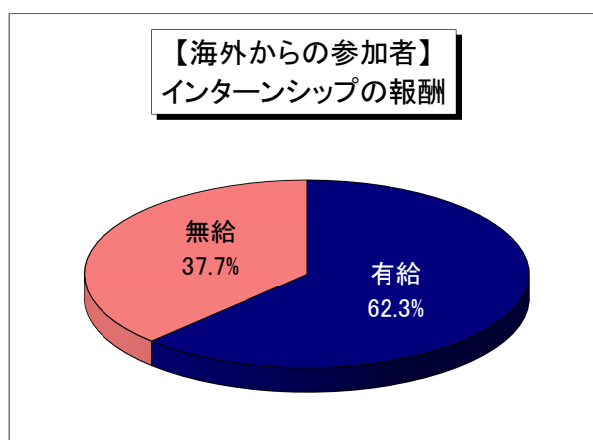
[2] インターンシップ先

インターンシップ先を「企業」と回答した学生は、67.6%。「NPO団体」は32.4%で、3割強だった。



[3] インターンシップの報酬

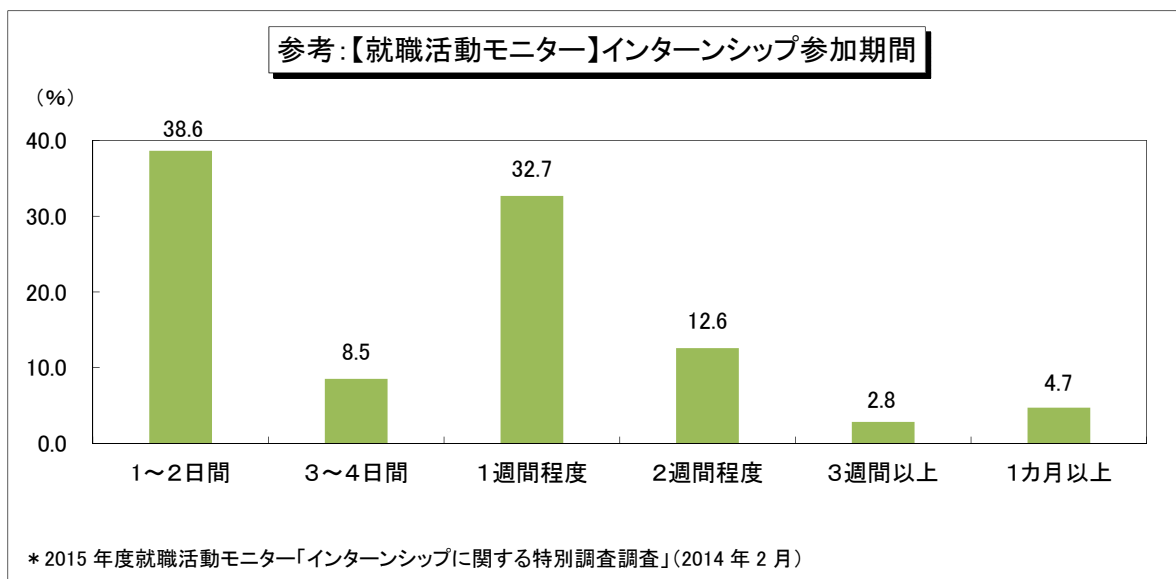
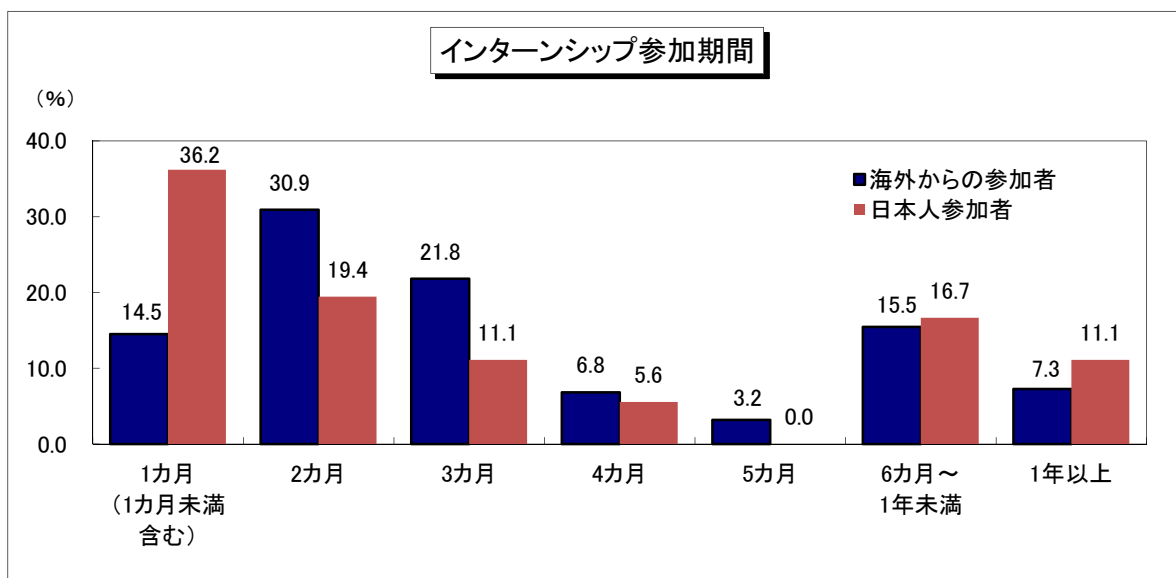
参加したインターンシップで報酬が支払われたかどうかについて、海外からの参加者と日本人参加者とで比較した。海外からの参加者は「有給」62.3%、「無給」37.7%と回答し、3人に2人は有給のインターンシップに参加していた。一方、日本人参加者は、「有給」33.3%、「無給」66.7%で、海外からの参加者とは逆の結果となった。



[4] インターンシップの参加期間

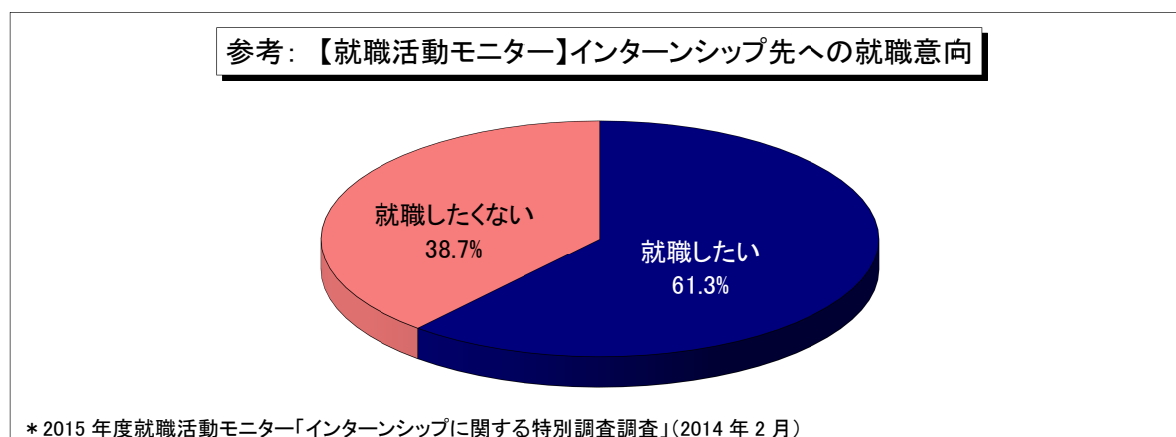
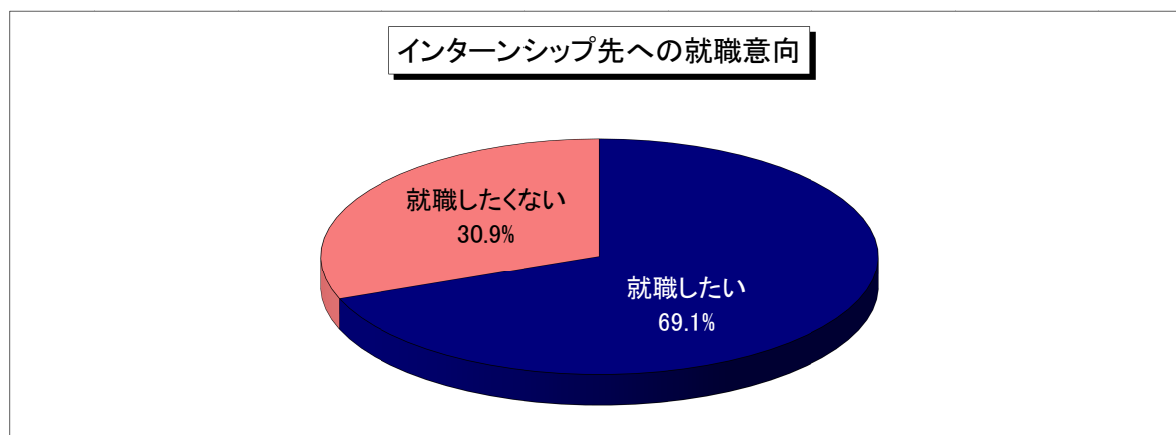
インターンシップの参加期間を見てみよう。海外からの参加者は「2 カ月」(30.9%) が最も多く、日本人参加者では「1 カ月 (1 カ月未満含む)」(36.2%) が最も多い。日本国内では短期間のインターンシップが多いことから参加期間のピークに差が生じていると推察できる。一方、長期間のものに目を向けてみると、「6 カ月以上」は「日本人参加者」が 27.8%、「海外からの参加者」は 22.8% で、参加率は日本人参加者の方が高くなっている。

参考までに就職活動モニターの参加期間を紹介したい。「1~2 日間」が 38.6% と最も多く、次いで「1 週間程度」(32.7%) だった。前出の就職活動モニターのインターンシップ参加経験では、約 6 割が参加していたがその多くは「1 週間程度」以下の短期間のインターンシップだったと言える。



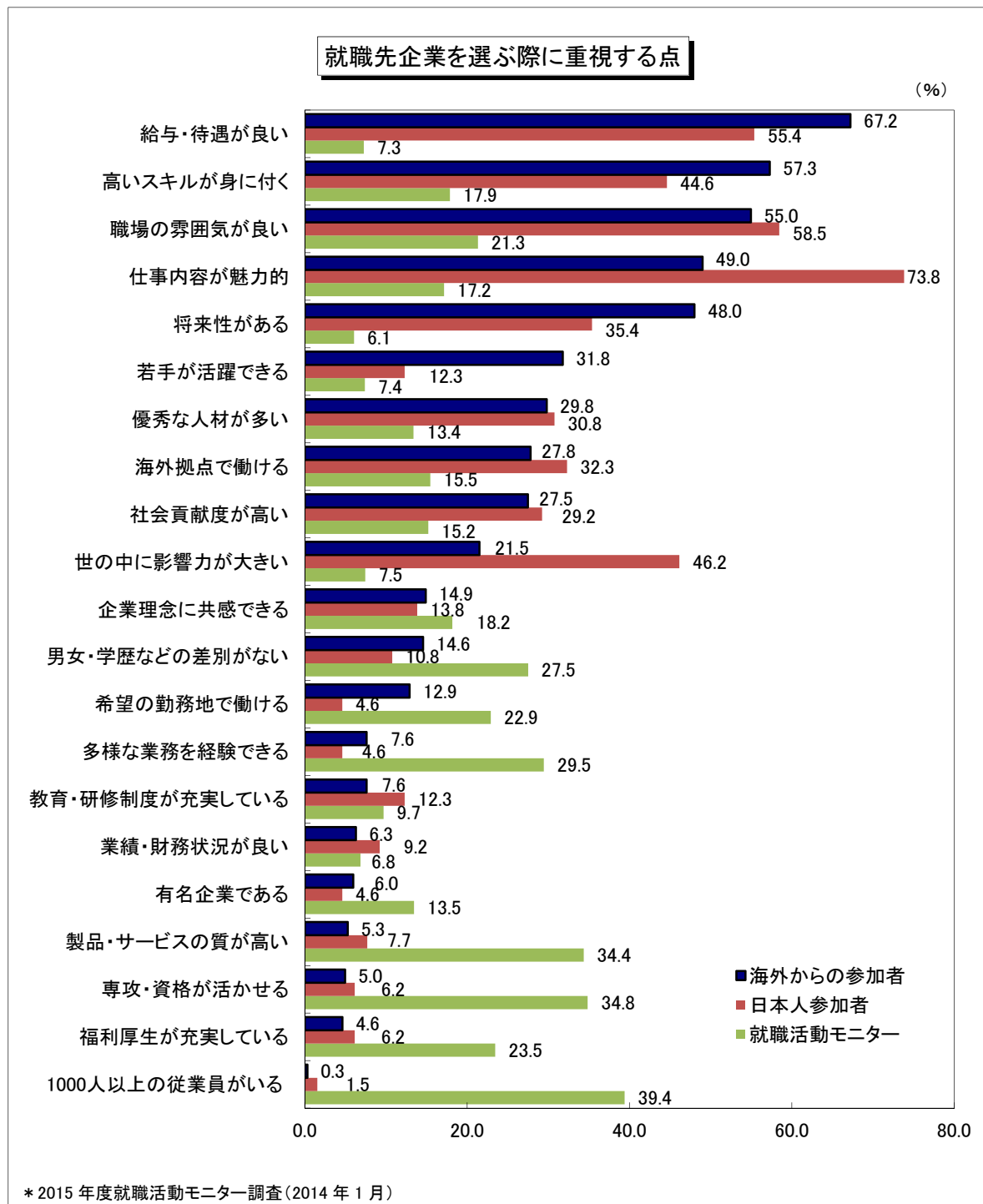
【5】インターンシップ先への就職意向

インターンシップ参加企業に就職したいかどうかについて尋ねたところ、参加者のうち約7割の69.1%が「就職したい」と回答した。また、就職活動モニターにも同様の質問をしているが、「就職したい」と回答したのは約6割の61.3%だった。アジア学生会議参加者と就職活動モニターのいずれも6割を超える学生がインターンシップ先への就職意向を示しており、インターンシップに参加することで、就職先候補として検討している様子が見えてくる。



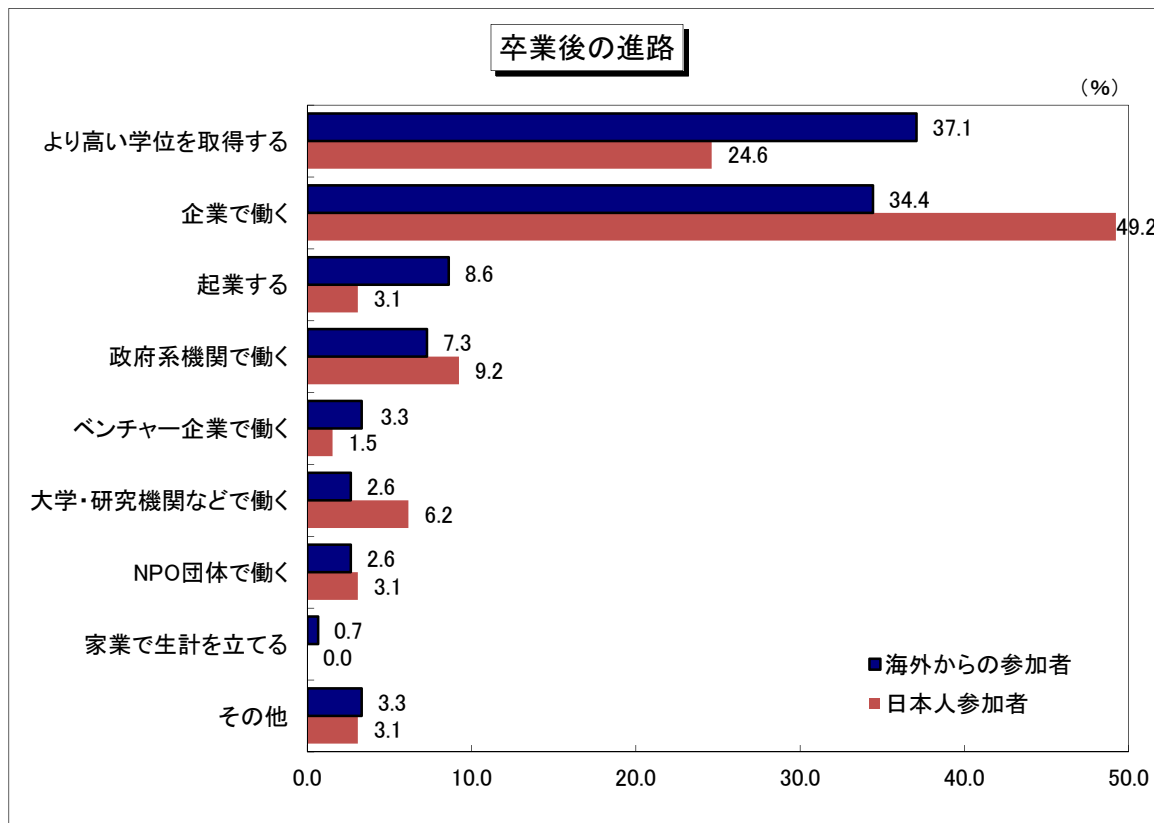
6. 就職先を選ぶ際に重視する点

就職先を選ぶ際に重視する点について、アジア学生会議参加者の「海外からの参加者」、「日本人参加者」ならびに「就職活動モニター」の三者で比較した。海外からの参加者で最も高いのは「給与・待遇が良い」67.2%、次いで「高いスキルが身に付く」57.3%、「職場の雰囲気が良い」55.0%が続く。一方、日本人参加者は「仕事内容が魅力的」73.8%が最も高く、続いて「職場の雰囲気が良い」58.5%、「給与・待遇が良い」55.4%だった。就職活動モニターは、「1000人以上の従業員がいる」39.4%、「製品・サービスの質が高い」34.4%など規模の大きさや品質を重視する傾向が見られた。

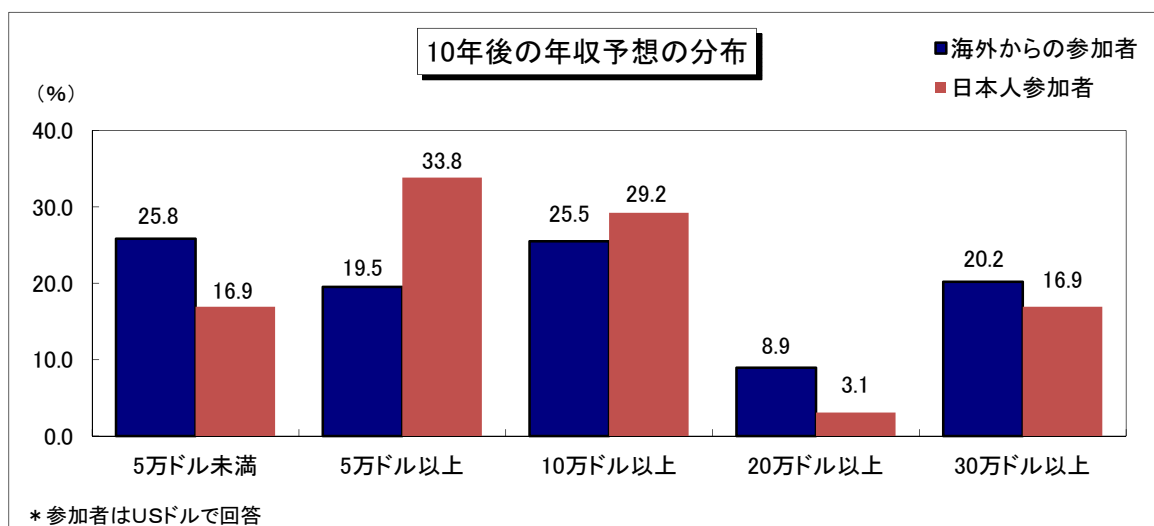


7. 卒業後の進路と 10 年後の年収予想

ここからは再度アジア学生会議の「海外からの参加者」と「日本人参加者」を比較しながらデータを見ていきたい。卒業後の進路について尋ねたところ、海外からの参加者は「より高い学位を取得する」（37.1%）が最も高かった。僅差で「企業で働く」（34.4%）が続く。一方、日本人参加者は「企業で働く」（49.2%）が 5 割弱と圧倒的に高く、「より高い学位を取得する」（24.6%）の約 2 倍にのぼった。



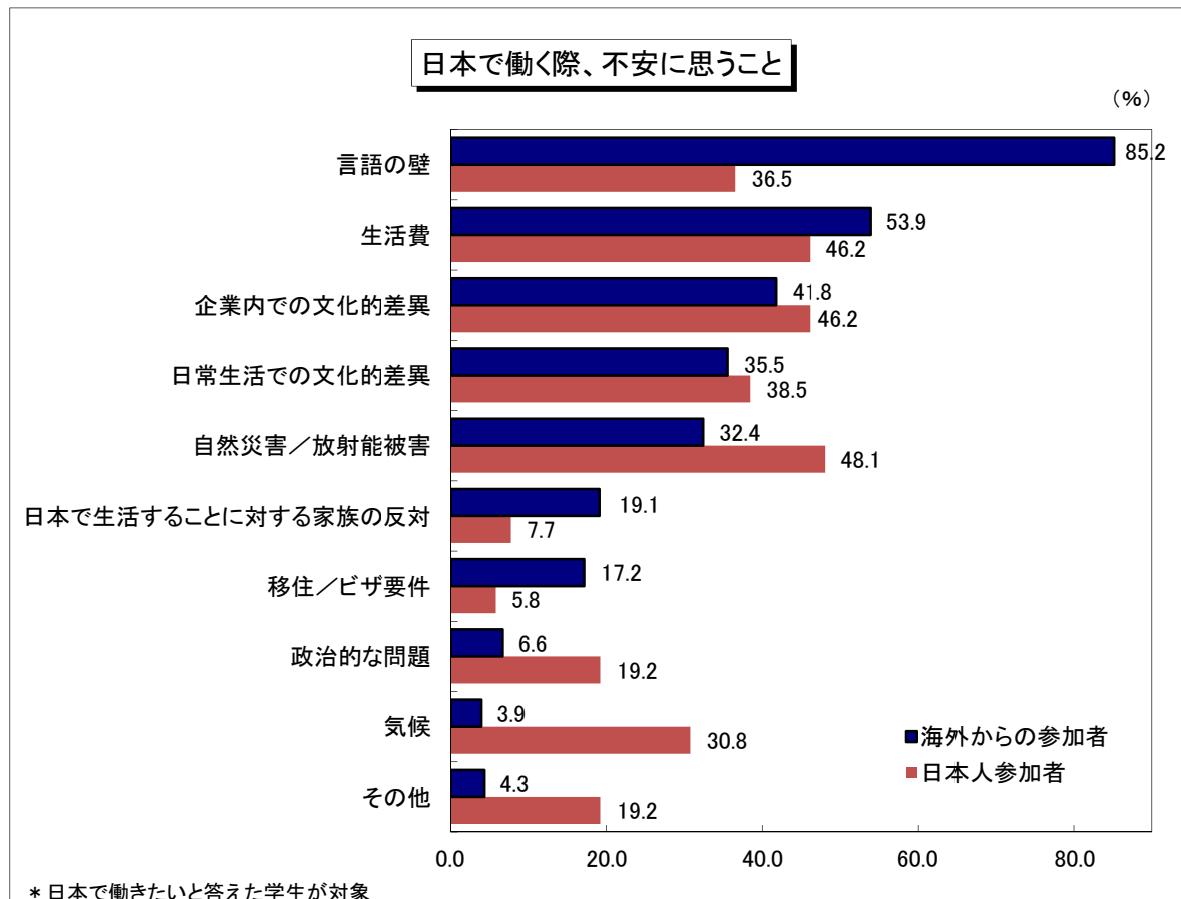
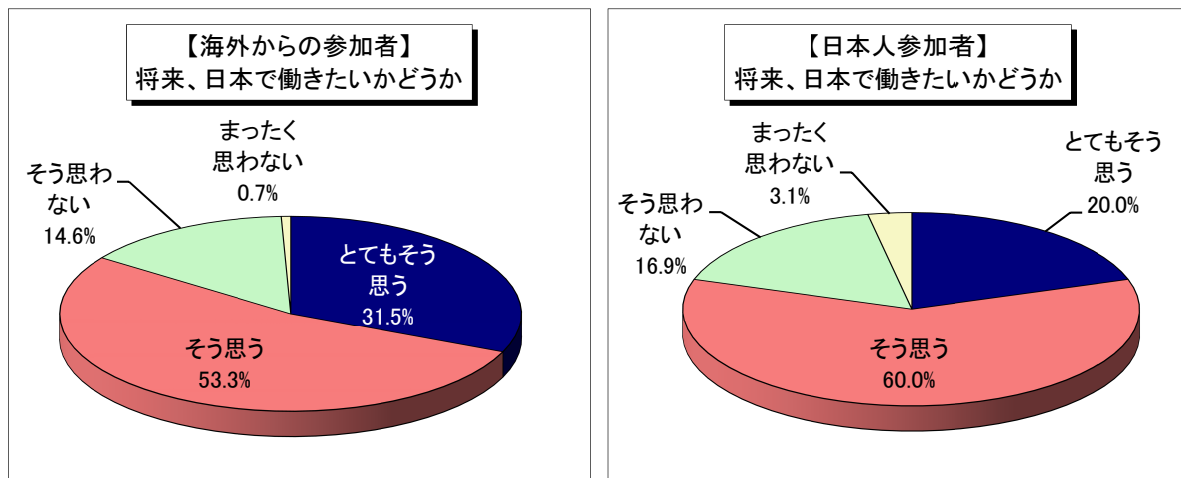
卒業 10 年後の年収を予想してもらった。日本人参加者は「5 万ドル以上～10 万ドル未満」（33.8%）、「10 万ドル以上～20 万ドル未満」（29.2%）に集中し、63%を占めるが、海外からの参加者は分散化している。「30 万ドル以上」は海外からの参加者（20.2%）、日本人参加者（16.9%）で、最高額は 1 億ドルだった。

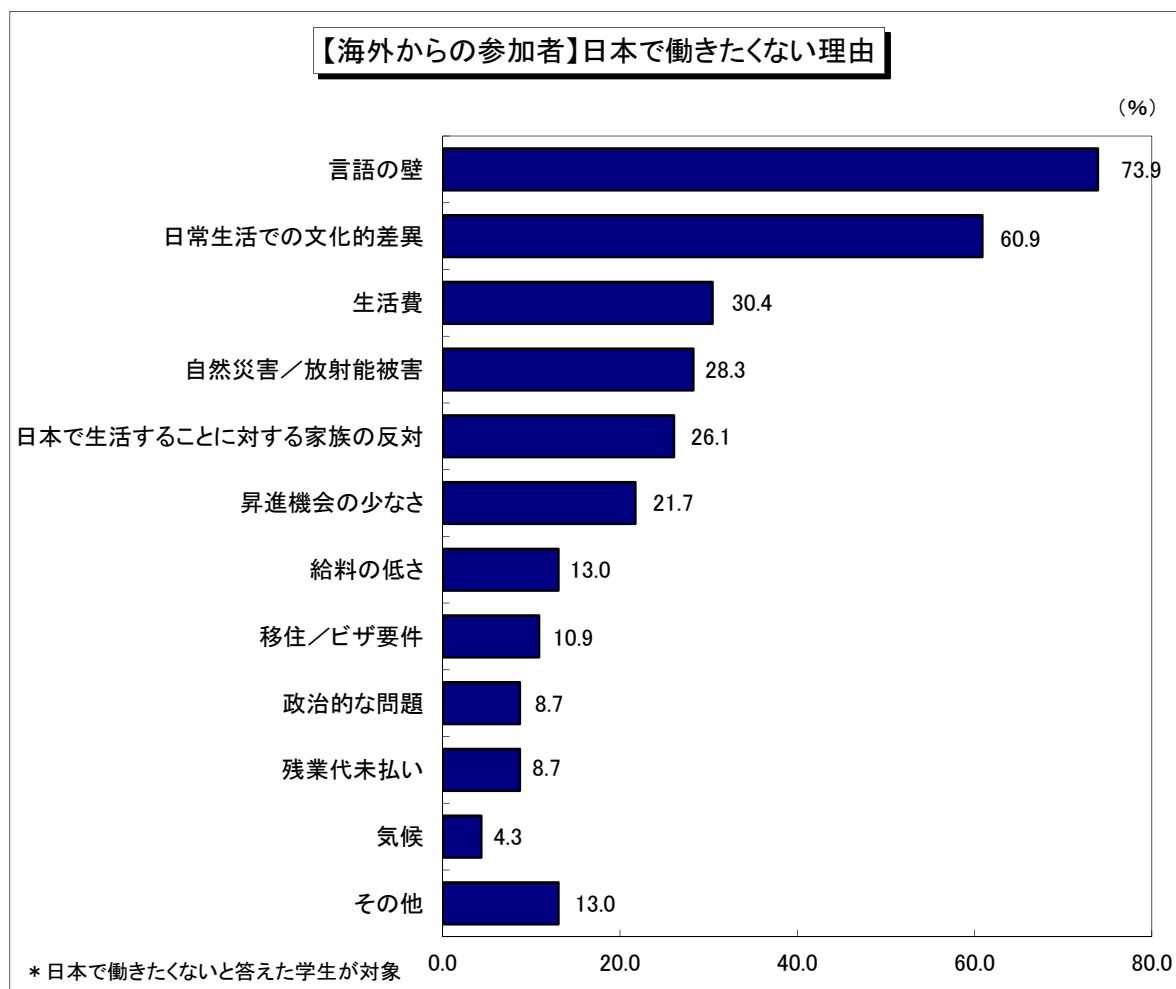


8. 日本での就業について

将来、日本で働きたいかどうかを尋ねたところ、海外からの参加者は「とてもそう思う」31.5%、「そう思う」53.3%と8割強（84.8%）が働きたいと回答した。日本人参加者も8割（80.0%）が日本で働きたいと回答したが、「とてもそう思う」は20.0%にとどまり、海外からの参加者の方が11.5ポイント多かった。

日本で働きたいと答えた学生が、実際に働く際不安に思うことについて見てみると、海外からの参加者は「言語の壁」85.2%が圧倒的に高い。「生活費」は53.9%と5割を超えた。日本人参加者は、「自然災害・放射能被害」（48.1%）が最も高かった。また、日本で働きたくないと回答した海外からの参加者にその理由を尋ねると、「言語の壁」73.9%が最も高い。次いで「日常生活での文化的差異」60.9%、「生活費」30.4%があがった。

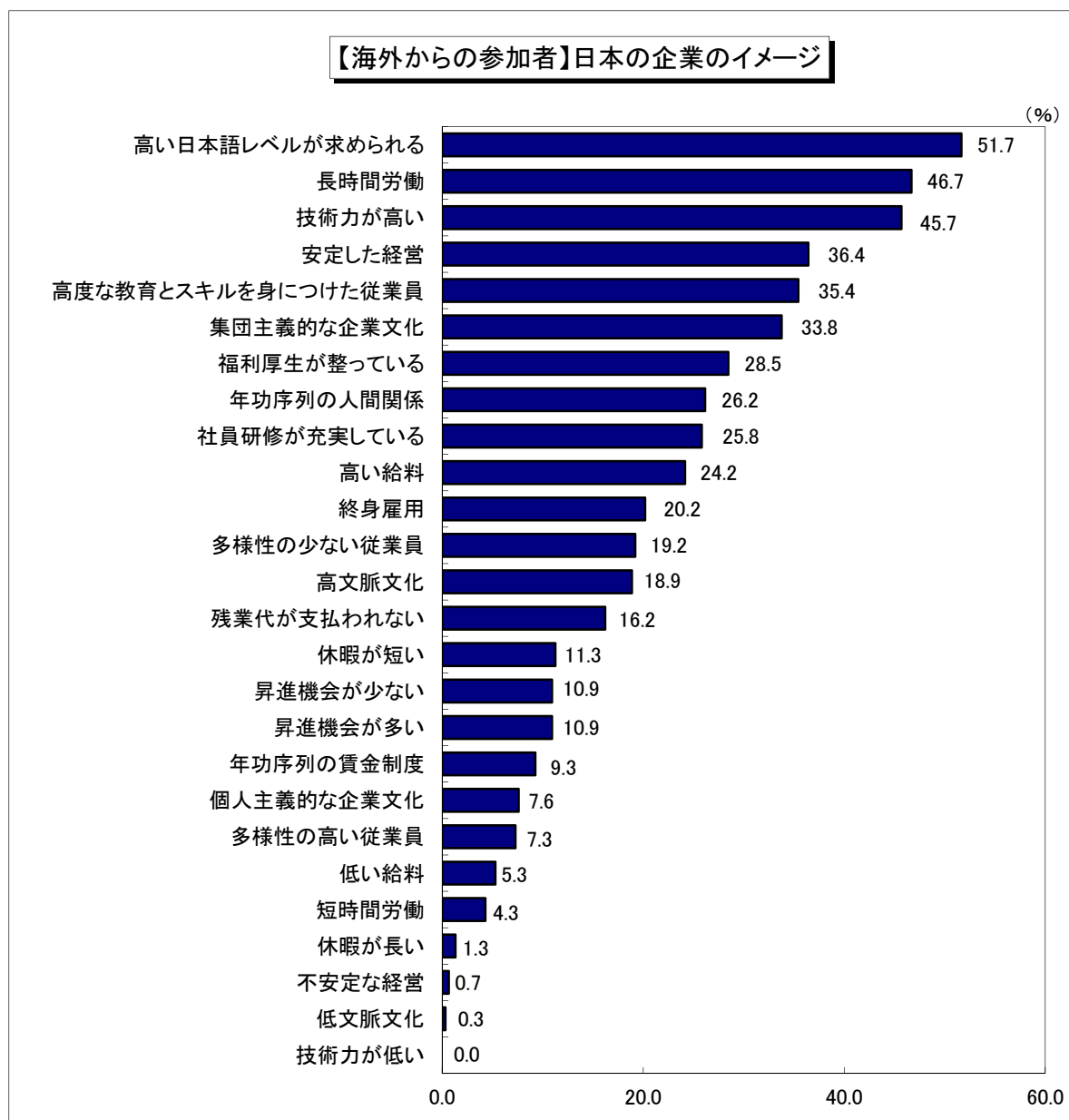




9. 日本の企業に対するイメージ

アジア学生会議の「海外からの参加者」は、日本の企業に対してどのようなイメージを抱いているのだろうか。

「高い日本語レベルが求められる」51.7%が最も高い。次いで「長時間労働」46.7%、「技術力が高い」45.7%、「安定した経営」36.4%が続く。日本で働く際に不安に思うこと、日本で働きたくない理由の両方で「言語の壁」が最も高かったが、ここでも「高い日本語レベルが求められる」が首位に挙げられた。



10. アジアを牽引する国、将来働きたい国について

今後、アジアを牽引する国はどこかを尋ねたところ（記述式回答）、「中国」（45.2%）が最も多く、「インド」（16.6%）、「日本」（3.8%）と続いた。「中国」「インド」が多いのは、冒頭で確認した参加者の出身国・地域で、「中国」「インド」からの参加者が全体の2割強を占めていることも関係ありそうだ。

一方、最も働きたいと回答した国は「アメリカ合衆国」37.6%だった。次いで「日本」21.3%、3番目に「イギリス」9.3%が挙げられた。アジア圏を牽引する国としては「中国」「インド」などに期待を寄せているものの、実際に働きたい国はアメリカ合衆国、日本で6割弱（58.9%）を占めた。

アジアを牽引する国・地域

(%)

		全体	海外からの参加者	日本人参加者
1	中国	45.2	48.7	29.2
2	インド	16.6	15.6	21.5
3	日本	3.8	3.0	7.7
4	インドネシア	3.3	2.6	6.2
5	フィリピン	2.2	2.3	1.5
6	アジア	1.9	1.3	4.6
7	シンガポール	1.6	1.7	1.5
8	韓国	1.4	1.7	0.0
9	タイ	0.5	0.3	1.5
	ベトナム	0.5	0.7	0.0
11	バングラデシュ	0.3	0.0	1.5
	イラン	0.3	0.3	0.0
	マレーシア	0.3	0.3	0.0
	ミャンマー	0.3	0.3	0.0

将来、働きたい国・地域（上位15カ国、地域）

(%)

		全体	海外からの参加者	日本人参加者
1	アメリカ合衆国	37.6	38.7	32.3
2	日本	21.3	14.2	53.8
3	イギリス	9.3	9.3	9.2
4	中国	7.9	8.9	3.1
5	シンガポール	6.8	7.3	4.6
6	インド	5.7	7.0	0.0
7	ドイツ	5.4	6.6	0.0
8	フィリピン	4.6	5.3	1.5
9	オーストラリア	4.4	5.0	1.5
10	カナダ	3.0	3.6	0.0
11	台湾	2.5	3.0	0.0
12	フランス	2.2	2.3	1.5
	韓国	2.2	2.6	0.0
14	ヨーロッパ	1.6	1.7	1.5
15	スイス	1.4	1.7	0.0

<参考データ>

参加者の出身国・地域

出身国・地域	人
Argentina	2
Australia	8
Azerbaijan	1
Belarusian	1
Bolivia	2
Brazilian	2
British	4
Canada	3
Chile	1
China	43
Colombia	2
Cypriot	1
Dutch	1
French	1
German	9
Greek	1
India	44
Indonesia	30
Israeli	1
Iran	1
Italian	3
Jamaican	2
Philippine	37
Japan	65
Korea	9
Kyrgyz	1
Malaysian	2
Mexican	8
Myanmar and Burmese	1
New Zealand	2
Pakistan	5
Peruvian	6
Polish	1
Russian	2
Singaporean	5
Taiwan	25
Thai	1
Vietnam	2
United States of America	32
全体	367

参加者の在籍大学

* 参加者数の上位50校までを掲載

大学名	国	参加者数
Keio University	日本	30
Harvard University	アメリカ合衆国	23
De La Salle University	フィリピン	12
Indian Institute of Technology Kharagpur	インド	11
University of the Philippines	フィリピン	11
Birla Institute of Technology and Science	インド	10
Waseda University	日本	10
The University of Tokyo	日本	9
University of Indonesia	インドネシア	9
Soka university	日本	8
National Taiwan University	台湾	7
The Chinese University of Hong Kong	中国	7
Petra Christian University	インドネシア	5
Universidad del Pacifico	ペルー	5
Ateneo de Manila University	フィリピン	4
Institut Teknologi Bandung	インドネシア	4
Northeastern University	アメリカ合衆国	4
Peking University	中国	4
The University of Hong Kong	中国	4
Universitas Indonesia	インドネシア	4
Bandung Institute of Technology	インドネシア	3
Brown University	アメリカ合衆国	3
Enderun Colleges	フィリピン	3
Hitotsubashi University	日本	3
Kyoto University	日本	3
National University of Science and Technology	ジンバブエ	3
National University of Singapore	シンガポール	3
National Yang-Ming University	台湾	3
Tokyo Institute of Technology	日本	3
University of Cambridge	イギリス	3
University of Hong Kong	中国	3
University of Macau	中国	3
University of Santo Tomas	フィリピン	3
University of Western Sydney	オーストラリア	3
Berlin School of Economics and Law	ドイツ	2
Cornell University	アメリカ合衆国	2
Delhi Technological University	インド	2
Doshisha University	日本	2
International Christian University	日本	2
Korea University	韓国	2
London School of Economics and Political Science	イギリス	2
Ludwig Maximilian University	ドイツ	2
Mumbai University	インド	2
Nanyang Technological University	シンガポール	2
Narsee Monjee Institute of Management and Higher Studies	インド	2
NMIMS UNIVERSITY	インド	2
Shanghai International Studies University	中国	2
SRM University	インド	2
UNAM	メキシコ	2
University of Melbourne	オーストラリア	2
University of Oxford	イギリス	2
Victoria University of Wellington	ニュージーランド	2